

9月24～28日、スウェーデンの南部スコネ県にあるマルメ大学歯学部にて研修（オーストラルフィジシャンアドバンスコース スウェーデンマルメ研修）以下マルメ研修を受講してまいりました。この研修の目的は、世界で最も健康な口腔内を創ったスウェーデンの歯科医師や歯科医師を生み出す教育機関、社会環境に直接触れ、学ぶこと。5日間のマルメ研修は私にとって、歯科医療人としての魂を揺さぶられる時間と空間でした。

なぜスウェーデンで研修を受けるのか？

日本の80歳の方は19～20本の歯を失っている事が最新の

調査でわかりました。おいし

いものをおいしく食べる事が高齢になるに従い困難になっているのが実情です。一方スウェーデンの80歳の方は虫歯や歯周病で失った歯の平均本数は世界で最も少なく7～8本です。日本とスウェーデンにおけるこの様な違いはなぜなのでしょう？

これは「スウェーデンの歯科医療が虫歯と歯周病予防が主体であり、さらに国全体の取り組みとして成功してきた」ためなのです。

では、なぜスウェーデンは予防主体の歯科医療を行なう事が出来るようになったのでしょうか？ それはスウェーデンの歯科医療哲学にあるのです。今回の研修は、その哲

学を知るための研修でした。スウェーデンの歯科医療哲学とは？

マルメ研修では、スウェーデンにおける歯科医療の変遷、虫歯と歯周病の予防方法及びメインテナンス方法、行政が行なう歯科医療体制、歯科医師及び衛生士の教育方法について講義が行われました。

この研修の内容について詳細を紹介する事は紙面の都合上できませんが、講義の構成や講師の方たちの配慮の行き届いた講義内容により、スウェーデン歯科医療の成長過程、様々な困難に対する克服方法が良く理解できる大変充実したものでした。

この研修を受けるまで、私の中に「スウェーデンはもとも国民性として歯科に対して予防的な意識が高く、予防が受け入れやすい土壌があったのではないかと」「日本には

例えるならある日、車が左側通行から右側通行に変わるくらい大きな変化です。しかし、きちんとしたデータとルールがあれば変わる事は出来ず」と教えてくれました。

私は、ダン・エリクソン先生の言葉を始めとする多くの講義から、科学的なデータの蓄積、徹底した分析、対応策を検討し実行、実行後もデータを追跡しその効果を再評価し更なる改善を行なう、そしてこのサイクルを繰り返す、

ことがスウェーデンで国民の健康を守る事が出来るようになったのだと理解し、日本でもデータの蓄積、分析、改善を繰り返す事で予防型の歯科医療を根付かせる事ができる」と確信する事ができました。

スウェーデンの様な国民性が無いために予防が受け入れられないのではないかと「と言った考えが根強くありました。しかし、このような「予防が患者さんにきちんと理解されない日本の歯科環境を患者さんのせいにする」私の甘い考えは間違いであった事がよく分かりました。

現在の歯科医療体制が整う以前（今から約40年前）のスウェーデンは現在の日本とそれほど変わらない、もしくは日本より悪い状況だった事をマルメ大学名誉教授のポー・クラッセ先生は講義でお話されました。

そんな状況を改善するべくポー・クラッセ先生を始めとする当時の歯科医師たちは、虫歯と歯周病に関する原因を究明し、科学的なデータを蓄積し、徹底して分析していき事で予防方法を確立していきました。また、予防方法を実

と歯周病のリスクコントロールを行ない、矯正治療後の再度の検査で、リスクコントロールの効果を再評価し更なる改善を行なっています。この基本的なサイクルを守る事こそが最も重要なことであると再確認できた研修でした。

私たちはこの研修結果で得られたものを毎日の診療で活かし、スウェーデン国民に負けない、願わくばそれ以上の健康な口腔内を提供できるように努力し続けます。

マルメだより
2007. 09. 24～28



スウェーデンマルメ研修
副院長・晝間康明



ココ！
9月24日～28日、ひるま矯正歯科副院長がスウェーデンのマルメ大学で受講した研修についてご紹介します。

験室だけで成り立たせ机上の空論にする事なく、国民に提供する具体的な方法も徹底して模索し、予防歯科を保険に導入し国民全体に提供する現実的な方法をも確立しました。さらに、予防方法が確立された後もデータを追跡する事でさらなる改良を加え続け、国全体の歯科医療に対する姿勢を修復型の歯科医療から予防型の歯科医療へと変えて行く事に成功したのです。



マルメ大学名誉教授
ポー・クラッセ先生



マルメ大学う蝕学教授
ダン・エリクソン先生

現在のマルメ大学歯学部う蝕学講座教授のダン・エリクソン先生は、講義の中で私たちにこう言いました。
「スウェーデンの歯科医療が虫歯と歯周病予防型の歯科医療にシフトできたのは科学的なデータを蓄積し続けていたため、様々な変化や問題点に早く気づく事ができ、迅速な対応が可能だったからでしょう」

「修復型の歯科医療が予防型の歯科医療に転換するのは、



ダン・エリクソン先生より
修了証の授与

今号に掲載予定だった「トビックス熊谷崇氏に聞く」は次号に、「ドキュメンタリー 矯正治療」はホームページに掲載します。